

北岡冬木 全詩集 目次

まえがきにかえて10代前期の俳句3篇

評論 寒河江光

著者抜粋詩

1. 第1詩集

処女詩集・蒼い地帯

宇宙は雨に濡れて

序奏

朝日は沈んでいく

(夢)

ステージ*

乾いた義眼

追悼詩・蒼い地帯

四月の幻想に纏わる四つの章

真昼の祭壇に関する未完の章

午後の洗礼

目には(口には)

曇った春の瞳孔

初期詩群

1. 水色への哀愁

黒い樹間の朱い珠

死人の顔

春宵桜

東京砂漠の伝説

水色への哀愁

夜はうたわない

太陽への航路

2. 絶望の奏でるエレジーたち

灯籠流し

夜の郊外電車

曇った鏡を拭いてみるには

昨日に寄せて

秋の瞑想

ある覚醒

排泄と喪失

真夜中のエアポート(逃亡)

3. リリカルな神話「聖女たち」

秋の蝶

忘れられた病室の少女へ

冬の原点

冬の空(・)海へ

白い朝の聖女像

4. イマジネーション・都市1970

幻想都市

α通りの悲惨な青春

太陽は健康的に病気をしています

ナイーヴな欲情

第2詩集・失速する魚群

秋の入口

秋の解読

序(プロローグ)

◎アキ・の・解読

◎罪状そして解読のヒント

小詩群・偏光感受

世界(宣誓)

弦薔薇に寄せる妄想

H氏の奇怪な夢

破綻走行

(透明な羽根に満ちた小宇宙)

H氏の初日の出

蛾城

落日落日(落日)

夏眠

まつりへ

(一)

(二)

(三)

(四)

(五)

空腹なる詩季

Birthday.

Sabbath.

21th Summer

Eye.

At Harajuku

Autumn,

Love.

Eve.

第3詩集・南十字星の都から

ぺんぐいんつあー

花盛り

アジアは懐かしき

アフタヌーンティー

秋桜の咲く宇宙にいて

砂丘の星

ダーウィン

干満の

春の3行詩

夏の3行詩

秋の3行詩

南回帰線巡礼歌

第4詩集 100連詩ごっこ (対詩：寒河江光)

連詩からの抜粋歌

第5詩集・懸垂する魚群

半世紀の紙屑桜

逆巻く逢瀬

懸垂する魚群

地球の超期記憶

海から

海の時間

難破船の還る日

海と少女(挿し込み歌)

第6詩集 花の詩集

ローダンスの記憶

サイネリアの透明な髻髻に捧げる詩

お見舞い(挿し込み歌—寒河江光)

紫陽花の恋人(挿し込み歌)

とびきり高い向日葵

秋が橋の向こうで(挿し込み歌)

コスモスの地平線

薔薇が馨る夜

ブルーローズ

ホワイトローズ

杏子の樹の下で

四月の風の JUN

四月の風の Jun(挿し込み歌)

ラベンダー畑消去

(あの夏)

血だらけの花園

生家のマジックガーデン(自画像)

白い朝

渚の記憶

少年と少女

夕陽の迷い

月の笑う晩舟は出る(挿し込み歌)

第7詩集 ラストエンジェル

一条の虹

ファティマの記憶

秘密の蝶道

南風を待つ大陸
世界は夜夜
春がドアの外で
春、悦楽の天使
前触れもなく
風の吹く宇宙へゆこう
春の予感
逆暦(さかごよみ)
冬の紫陽花
雪解け待ちの国

第8詩集 死滅する魚群

残酷な桜
死の見える谷間
震災の後に
魚群の挫折
真っ黒な夏
秋が橋の向こうで
詩は世界を巡る
死後の惑星

あとがき 北岡冬木